

平成 23 年 7 月 29 日

平成 23 年度前期を終了して

学 長 木元 幸一

学生の皆様には、日ごろの学業と学生活動に加えて、節電へのご理解とご協力をお願いし、大変なご配慮とご尽力をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。例年通りの前期学事日程が何の支障もなくここまで終了できたことは、一重に学生の皆様を中心として本学教職員全ての方々のご尽力によるものと感謝しております。普通に学ぶことが困難となっている被災地の方々を思うと、学べる環境にあることを感謝し、それを全うすることは当然でもあります。多くの大学が、授業開始を遅らせたり、逆に早々と終了したのに比べると、それはそれで理由があり正当なことです。きちんと最初から最後まで授業等を実施できたことは、東京家政大学の意識の高さと誠実な人柄を、私ならずとも皆さん自分を含めて誇らしく感じたのではないのでしょうか。本学の建学の精神である「自主自律」と生活信条である「愛情・勤勉・聡明」が、学生の皆さんは勿論、教職員を含む学園全体に浸透し、粛々と引き継がれていることを示しているに他ありません。大学側と致しましても、若い学生の命を預かっている以上、前期が支障なく終了し、一先ず肩の荷が降りてホッとしております。

大学は、夏休みとはいえ、後期に皆さん全員が元気に戻ってきてくれることを心待ちにしていますので、休み中もずっと東京家政大学及び東京家政大学短期大学部の学生であることを忘れないでください。1年生とは導入教育 Moodle で繋がっていますね。さて、1年生の皆さんはこれから4年間または2年間、夏と春にこのように長い休みが4回ないし8回あります。卒業年は卒論や制作と就活とがあり無理かもしれませんが、社会人となるとありえないこの貴重な長い休みを、計画的に過ごすことを考えてください。何も考えずにアルバイトに日々流され、過ごしてしまっはいけませんよ。卒業後はいやでも毎日働くのです。卒業後の長い人生を充実させるには、是非自分で考えて大きな投資をするつもりで、この休みを有効に活用することを考えてください。これをしたらどうですかとは言いません。自分で考えてください。私からのお願いです。遊んではいけませんということではなく、自分でメリハリをつけ、自分で考えた生活をできるようにする絶好のチャンスだということです。上級生、大学院生は、暑い中、実習、卒論、卒製や就活にご苦労さまです。試練は、自分を成長させてくれるものです。目前のことに囚われ過ぎず、樂觀して前向きにいきましょう。それで十分前に進んでいるのです。

では、皆さんの夏休みが、各々良いものであることを祈っています。また9月に会いましょう。